

多文化共生を目指して

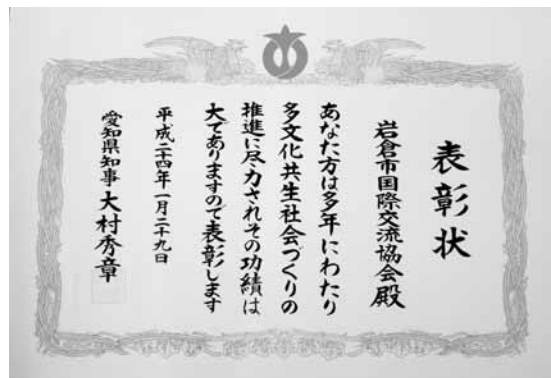
平成23年度愛知県多文化共生推進功労者表彰受賞

1月29日、名古屋で授賞式があり、大村愛知県知事より直接授与されました。

外国籍の住民がとりわけ多い岩倉市で、毎週開催している日本語教室や、NPO 外国人医療センターの協力をいただいて岩倉団地で毎年実施している外国人無料健康相談会など、地域のニーズに応えた取り組みを中心に、「世界のお惣菜」「こいのぼり作り」

「ホームステイ受け入れ」のようなお互いの文化を

知る機会を市民に提供する活動などが評価されたものと思います。この受賞を機に一層住みよいまちづくりを目指して協会の活動を展開していきましょう。



24年度中学生海外派遣はモンゴル国に決定

岩倉市からの受託事業、中学生海外派遣事業は昨年までの6年、マレーシアで実施していましたが、諸々の状況から今年度はモンゴル国に決定しました。

大相撲では白鵬関を始め、モンゴル国出身の力士が多数活躍していますので、馴染深く感じる人も多いでしょう。国土はモンゴル高原に位置し、壮大な自然の中で遊牧など独自の文化、生活様式を営んでいます。今までホームステイや「世界のお惣菜」の講師として岩倉へ訪れたモンゴルの人たちは「日本人とそっくり」という印象を持っています。それなのに生活様式はだいぶ違うことでしょう。そんな環境で若い世代が何を感じ、何かを学んでいただけることを期待します。募集は4月1日から始まっています。多数の応募がありますように！



写真提供：近畿日本ツーリスト

23年度の協会の取り組み

20周年記念講演

平成23年4月16日、ラジオパーソナリティにして講師の水谷ミミさんを迎え、「笑顔は地球を救う」と題し、生涯学習センターで開催されました。前半のトークではご自身のご家族のことや講談との出会いなどを話され、その軽妙なトークに会場は笑い声が絶えませんでした。

後半では講師「水谷風鱗」として登場。高度成長期の名古屋を舞台にしたお話を迫力ある語り口で講談されました。



こいのぼり作りとホームステイ

5月29日（土）～30日（日）の二日間、恒例の“こいのぼり作り”とホームステイを行ないました。ゲストには国際協力事業団のメキシコからの研修生を6名お招きしました。中島屋織店さんのご指導のもと、カラフルなこいのぼりができました。初めての体験とあって、とても楽しかったようでした。また、全員が一泊のホームステイをし、ホストファミリーの方々もいい思い出ができたと話していました。



受託事業・中学生海外派遣

23年度受託事業、中学生海外派遣事業はマレーシア・パハン州テメローのホームステイ村に行きました。村では岩倉の中学生を受け入れたことのあるホストファミリーが待っていてくれましたが、ラマダン（断食）中とあって、時間的に一緒に食事できない毎日でした。訪問校 Temerloh Integrated Bording School は初めての学校でしたが、日本語の授業が盛んで、先生や生徒が日本語で話しかけてくれました。派遣団は驚くと共に、一層の親しみを感じて交流できました。宗教、食事、生活習慣、言語などさまざまな点で学ぶこと、感じることの多い研修でした。



ふれ愛まつり

11月12日・13日に実施されたふれ愛まつりでは昨年度に引き続きアジアのカップラーメンの販売を行いました。韓国、タイ等から取り寄せた辛口ラーメンは人気で今年も完売。

カップラーメンの販売と併せて各国のお茶の試飲や小物雑貨の販売等も好評でした。



人に会う旅

「人に会う旅」が平成23年11月下旬に再開、総勢9名で実施されました。現地の学校に野球のバットとボールを届けたことを始め、サンフェルナンド市役所への表敬訪問、現地のビールメーカーのサンミゲール工場への視察、また、訪問団員の調理した日本食による交流パーティー、旧友（タイクス）のお墓まいり、そしてなによりグタの街の「ともだち」との再会を果たした旅となりました。



設立20周年記念式典&地球まるごと食べちゃおう

12月11日、希望の家で開催しました。記念式典では岩倉太鼓友の会の演奏で始まり、これまでの20年を振り返りスライド写真で紹介しました。

今回で4回目となる「地球まるごと食べちゃおう」では、在日外国人らが自国で日常的に食べている家庭的な料理を彼らが自ら来場者に手料理としてふるまう試食会でした。来場者は約250人、出店参加した10カ国全部の料理があつという間に完売する盛況ぶりでした。



外国人無料健康相談会

3月11日、岩倉市内及び近隣在住の外国人を対象に健康不安を持ちながら言葉や費用のことが気になりで日ごろ医療機関にかかれない外国人のための無料健康相談会を開催しました。NPO法人外国人医療センターとの共催で、今年で5回目となります。検尿検査、骨密度測定、レントゲン撮影、看護師問診、歯科医師診療など来場した18人の外国人が受診されました。



世界のお惣菜

8月 モンゴル料理・・・ラム肉とじゃがいもの煮込み、ラム肉入りお粥、ミルクティを楽しみながら調理。塩味であっさりと大自然を感じました。

3月 ウズベキスタン料理・・・現役の男子大学生が先生でびっくり！パロフ（ニンジンたっぷりのピラフ）、マスタヴァ（ラム肉入りリゾット）、サラダも皆シンプルで美味しく頂きました。



フィリピン支援ボランティア報告

今度はパンパンガ語で！

今回僕は6年前と7年前に2度訪れたことのある町、グタに1ヶ月滞在した。国際交流協会のフィリピン支援ボランティアに応募しての滞在である。中学生で訪問した6年前と現在とでは気づくことは全く違い、今回の旅で僕はフィリピンという国の文化、宗教、歴史的背景、人々の性格、そして外から見た日本など、様々な事を経験した中で知ることができた。その中でも最も印象的だったのが、言語である。

僕は3つの小学校に何回か行き、日本の文化を紹介するという内容の授業をした。そこでは、小学5年生の生徒が当然のように僕の英語を理解していた。フィリピンには多数の言語があり、公用語は英語とフィリピン語（タガログ語と同じとされる）となっている。僕が行った地域はパンパンガ語が使われているので、生徒は3つの言語を同時に習得している。生徒に難しくはないのかと聞くと、すべての言語が身近にあるので辛くはないと言っていた。確かにテレビを観ている時はタガログ語であったり英語であったり、話をするときはパンパンガ語であったり、看板や何かの説明文などは英語であった。それだけ身近に様々な言語があれば習得するのは早いだらうと納得した。ホームステイ先に4歳の男の子がいたのだが、その子でさえ僕が着いた頃は何も話せなかったのに、帰る頃には“sleepy?”と“you want beer?”といつの間にか話していた。

今回の旅で多くの人にお世話になり、友達になり、6年前にお世話になった人達に再び会うことができた。そういった方々に以前は話すことができなかった英語と拙いパンパンガ語でお礼を言うことができた。次に訪れるときは是非タガログ語かパンパンガ語で話したい。(出野 脩 大1)



会員継続手続き及び新規会員募集のご案内

事業は会員の会費と岩倉市国際交流事業補助金で運営されています。会員継続手続きをされていない人は下記の口座へ会費のお振込みをお願いします。また新規会員も随時受け付けています。新規会員の申し込みは下記問合先にご連絡をお願いします。

会費振込先 いちい信用金庫愛北営業部 普通預金 1016300

口座名義人 岩倉市国際交流協会 内藤和子

会費 家族会員3口(3千円)以上

問合先 内藤 (0587-66-7347) 出野 (0587-37-2495)

杉浦 (0587-37-9191) 竹安 (090-1230-2444)

会報 COM第71号(2012年4月22日) 事務局 〒482-0021 岩倉市新柳町3-21-2(内藤方)
 発行 岩倉市国際交流協会 TEL・FAX 0587-66-7347
 印刷 大橋印刷所 <http://www.iies.info/>